

「伝統」の問題も、谷口のなかでは、庭園や彫刻・絵画との共同による「総合芸術」への試みと同一の文脈上にあつたといえます。すなわち彼は、人々が「日常の生活を美しく表現」するうえで有効性を「和風」に見出していたのです。谷口は、伝統の問題をより実践的にとらえていたといえるでしょう。

おわりに

◆建築と景観の価値

一九九三（平成五）年、豊田講堂は大改修を受け、裏庭にはシンポジオンが建てられ、同年一〇月には名古屋市の「都市景観重要建築物」に指定されました。また、豊田講堂や古川図書館が面するグリーンベルトも、同年七月に名古屋市の条例による「四谷・山手通都市景観整備地区」に指定されました。すなわち、豊田講堂やグリーンベルトの景観は、名古屋大学だけのものではなく、広く公共の資産として位置づけられているといえます。さらに近年中には、グリーンベルトの中央に名古屋市営地下鉄「名古屋大学駅（仮称）」が開業すると聞いています。

今後より一層、豊田講堂、古川図書館そしてグリーンベルトの景観に注目が集まることになると思われます。またこうした一連の指定により、豊田講堂については現状変更行為の届出義務があり、グリーンベルトまわりでは広告物の規制などが課せられています。ただし、このような規制に頼らなくとも、大学はグリーンベルト周辺の景観整備を積極的に進めていくべきですし、また大学構成員一人ひとりも、景観の価値を認識し、美しいキャンパスの保持に小さな努力を積み重ねていただきたいと思います。

豊田講堂は、時計台の電飾や夜間ライトアップも行われ、ランドマークとして定着しています。講堂とそのテラスは入学式、卒業式などの各種式典の会場として恵まれたスペースです。古川図書館は、約二〇年間、古川総合資料館などの活動によって継承され、現在、名古屋大学博物館として来館者を集めています。この建物の吹き抜け空間は展示空間としても十分に魅力的であり、資料館時代もふくめ極めて適切な用途に活用されています。ただし、やむを得ない理由によるエントランス付近の仮使用や各種間仕切りにより、必ずしも建築の特質を十分に生かした改修が行われているわけではありません。建築の価値を生かしながら手を入れていくには、これまで述べてきたような建築のデザインを読み解く作業をふくめて、専門的な視点からの周到なデザインの検討を要します。今後、こうした点に十分な時間と労力を割いて、古川図書館が、もともと備えていた価値を取り戻しながら、一層有効に活用していく努力が不可欠だ

と思われず。

◆メンテナンスと建築文化

昨今の国立大学の建物をはじめとする公共建築は、なるべくメンテナンスの必要のない建物をつくる傾向にあります。とくに豊田講堂や古川図書館にみられる打ち放しコンクリート仕上げは、タイル貼り仕上げに比較してメンテナンスが必要なので、うとまれることが多いようです。しかしながら、たとえタイルが張ってあろうとなかろうと、いかなる建物も点検や保全を行わなければ、当初予定された耐用年数を迎えることさえままなりません。

一度建ててしまえば、あとは何の手入れもせず、汚れたり壊れたりしても、基本的性能に支障がない限り放っておき、挙げ句は朽ちるまで使いつぶす。こうした「スクラップ・アンド・ビルド」という考え方は、消費社会における文化的貧困の表れであり、大変残念に思います。多少の手入れさえすれば、建物はずっと長持ちしますし、使う人にとって身近な存在になっていくのです。大学に関していえば、このような潤いのない空間で、我が国の文化を担う人材を育成するのは、いかにも心もとない話です。大学の構成員である各自が、大学の建物について正しい知識と関心を持ち、「建物を大切にする大学」をめざすべきでしょう。そうした土壌の上にこそよい人材が育つのではないのでしょうか。

◆コンクリート建造物の保存と再生

先述してきた通り、豊田講堂と古川図書館という二つの寄付建物は、第二次世界大戦後の日本を代表する鉄筋コンクリートによるモダニズム建築です。そしてそれらは、東山キャンパスの生い立ちを正しく伝えるものであり、そのデザインをよく学んだ上で今後のキャンパス計画において尊重し継承することが大変重要であると思われれます。

ところでコンクリートは年月とともに「中性化」が進行しますが、高温多湿の日本では実際には五〇年前後で取り壊されることが多いのです。特に戦後の高度経済成長期に用いられたコンクリートの性能は著しく劣ることが指摘されています。このような状況において我が国におけるコンクリート建築は、果たして歴史的建造物となり得るのでしょうか。サステナビリティ（持続的発展）という観点からすれば、第二次大戦後におけるコンクリート建築による歴史的建造物の保存と再生は、現代社会における重要な課題になりつつあります。豊田講堂に代表されるこの時期のコンクリート建築を「高度経済成長期の負の遺産」としてしまつてはいけません。豊田講堂については、平成一一年度に行われた耐震診断によつて、基本的な耐震性能には問題がないことが確認されていますし、古川図書館については、近年中の耐震改修が計画されています。

一方、国立大学は現在、大きな転換点を迎えており、政府は国立大学施設の大規模改修

を行う方針を打ち出しています。これらの一連の改修事業において、コンクリート建築の保存と再生に対する方針を打ち出す必要があります。その際、コンクリートの耐用年数という単なる性能上の議論に終始してはなりません。中性化の問題に対処する上でそのメンテナンスを定期的に行っていくのはもちろんのことですが、我が国では、そうした性能を議論する以前の空間の美的価値に対する議論があまりにも浅薄です。レンガの建物をみる際に生じるある種の郷愁や憧憬と同じ価値観によって、戦後のコンクリート建築を評価できるとは思えません。今後我々は第二次大戦後におけるコンクリート建築に対する審美的な価値観の創造と、空間の質に対する積極的な評価を行う必要があります。それは名古屋大学の二つの寄付建物が示唆する問題に他ならないのです。

〈引用文献・参考文献〉

- 藤森照信『日本の近代建築（上・下）』（岩波書店、一九九三年）
- 内田祥三先生眉寿祝賀記念作品集刊行会『内田祥三先生作品集』（鹿島出版会、一九六九年）
- 一橋大学新聞部『一橋新聞 復刻版』（不二出版、一九八八年）
- 竹内洋『学歴貴族の栄光と挫折』（中央公論新社、一九九九年）
- 名古屋大学史編集委員会編『名古屋大学五十年史 通史一・二』（名古屋大学、一九九五年）

- 名古屋大学史編集委員会編『名古屋大学五十年史 部局史二』（名古屋大学、一九八九年）
- 稿本名古屋大学五十年史編集委員会編『稿本名古屋大学五十年史八』（名古屋大学、一九九四年）
- 須川義弘『半生を顧みる』（私家版、一九八二年）
- 木方十根「愛知医科大学時代の施設拡充について」（『名古屋大学史紀要』第七号、一九九九年）
- 小橋博史『獅子奮迅 古川為三郎伝』（古川為三郎伝発行委員会、一九八九年）
- 内井昭蔵監修『モダニズム建築の軌跡』（INAX出版、二〇〇〇年）
- 鈴木博之、石井和紘『現代建築家』（昌文社、一九八二年）
- 栗田勇編『現代日本建築家全集19』（三一書房、一九七一年）
- 槇文彦『記憶の形象』（筑摩書房、一九九二年）
- 槇文彦編著『見えがくれする都市』（鹿島出版会、一九八〇年）
- 槇総合計画事務所編著『槇文彦のディテール 空間の表徴―階段』（彰国社、一九九九年）
- 八東はじめ、吉松秀樹『メタポリズム』（INAX出版、二〇〇〇年）
- 横山正『時計塔』（鹿島出版会、一九八六年）
- Reyner Banham, *The New Brutalism*, London, 1966.
- Reyner Banham, *Megasstructure*, New York, 1976.
- 日本建築学会谷口吉郎展実行委員会編『建築文化別冊 谷口吉郎の世界 モダニズム相対化がひらいた地平』（彰国社、一九九七年）

- 谷口吉郎作品集刊行委員会 『谷口吉郎作品集』（淡交社、一九八一年）
- 谷口吉郎 『谷口吉郎著作集 第一巻〜第五巻』（淡交社、一九八一年）
- 浜口隆一 『現代デザインをになう人々』（工作社、一九六二年）
- 神代雄一郎 『現代建築と芸術』（彰国社、一九五八年）
- 藤岡洋保 『伝統論争の歴史』『建築二十世紀 part 2』（新建築社、一九九一年）
- 川添登 『建築家・人と作品 上』（井上書院、一九六八年）
- Barry Bergdoll, *Karl Friedrich Schinkel - An Architecture for Prussia*, New York, 1994.
- 「脇田和 自選展」（名古屋画廊、一九八八年）
- 藤井正一郎 『現代建築をどうとらえるか』（彰国社、一九六八年）
- 布野修司 『戦後建築の終焉』（れんが書房新社、一九九五年）
- 山本一輔 『コンクリートが危ない』（岩波新書、一九九九年）

著者略歴

堀田 典裕（ほった よしひろ）

一九六七年、三重県生まれ

名古屋大学大学院工学研究科修了

現在、名古屋大学工学部社会環境工学科

建築学コース 助手

専攻 建築意匠論・建築設計

木方 十根（きかた じゅんね）

一九六八年、岐阜県生まれ

東京芸術大学大学院美術研究科修了

現在、名古屋大学工学部社会環境工学科

建築学コース 助手

専攻 建築史・建築設計

名大史ブックレット4

豊田講堂と古川図書館

——名古屋大学の寄付建物——

二〇〇一年二月二八日 第一刷発行

著者 堀田 典裕

木方 十根

編集発行

名古屋大学 大学史資料室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

電話 〇五二（七八九）二〇四六

印刷所 株式会社 ク イ ッ ク ス

〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町一九一〇

電話 〇五二（八七二）九一九〇



表紙表：豊田講堂ピロティより古川
図書館を望む
表紙裏：古川図書館屋上より豊田講
堂を望む